



公募テーマ：

「産業構造審議会 教育イノベーション小委員会  
「中間とりまとめ」の論点の社会実装」に関するテーマ

# 映像制作を通じた社会課題探究プロジェクト 「ティーンディレクター」

～ 地域のテレビ局と協力して地域の企業と生徒をつなぎ継続的に探究学習ができる仕組み構築 ～

## 最終成果報告書

事業者名

株式会社ディレクションズ



担当者情報

- 所属／役職：アカデミック・ソリューション／執行役員
- 氏名(フリガナ)：榎崎匡 (ナラサキ マサシ)
- メールアドレス：[teendirector@directions.jp](mailto:teendirector@directions.jp)
- 電話番号： 03-5790-5111

2024年2月22日

# 実証事業サマリ：株式会社ディレクションズ

## 実証の背景と成果

### 背景

多様な学びを学校のみで提供することは、人材、資金の観点から困難。

上記を解決するため、テレビ局、スポンサー企業・団体、生徒・学校が連携した持続的な学びの場の創出を目指す。



### 成果

#### ①テレビ局と連携した探究学習プログラムの実装

- 生徒は映像制作プログラムを通して、取材と思考の整理を繰り返すことで社会課題への理解を向上。

#### ②外部講師の指導の質を担保するためのノウハウ取りまとめ

- 映像制作者が番組制作を通して培った取材や構成の技術をもって、生徒の課題理解を深化させるノウハウを蓄積。

#### ③持続的な仕組み構築

- テレビ局を基点とした学びの場は成立可能
  - テレビ局が取材企業に営業・運営資金を確保。  
テレビ局はそれをもとにワークショップを運営し、地域の中高生に無償提供するというサイクルのモデルを構築。
- 一方、運営をするための人的コストが高く、資金調達のハードルが大きく、多くの生徒への普及は難易度が高いため、裾野を広げるために学校現場での導入プランを作成。

## 実証内容

8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
	各企業・団体・学校との実証内容の確認					
	マニュアルワークシートスライド作成				マニュアルワークシートスライド改善	
	外部講師事前研修					
	外部講師のチームで伴走方法を検討					
	各学校でワークショップ実践					
効果検証 研究設計	効果検証 調査実施				効果検証 分析・まとめ	

# 最終報告書目次

1. 事業者
2. 背景と目指す姿
3. 実施体制・実証フィールド
4. 実証内容
5. 実証結果
6. 今後の自走・普及プラン

Appendix

# 最終報告書目次

1. 事業者
2. 背景と目指す姿
3. 実施体制・実証フィールド
4. 実証内容
5. 実証結果
6. 今後の自走・普及プラン

Appendix

# 1. 事業者

## 【 株式会社ディレクションズ 】

NHK Eテレの子ども番組や教養バラエティ、ドキュメンタリーなどの制作で培った企画力、物語を紡ぐ力、キャスティング力、特殊技術の応用といった独自のノウハウを活かし、さまざまな学習コンテンツを20年に渡り制作してきました。

年度	沿革
2004	株式会社ディレクションズ創立
2005	ベネッセ幼児向け教材『こどもちゃれんじ』の制作を開始
2010	NHK Eテレにて音楽系教養番組『スコラ 坂本龍一 音楽の学校』を制作
2013	NHK Eテレにて音楽教育番組『ムジカ・ピッコリーノ』制作
2014	教科書出版社・東京書籍の動画教材の制作を開始
2017	オンライン学習サービス『スタディサプリ』で映像コンテンツ制作を開始
2019	中高生向け音楽ワークショップ『渋谷ストリートクラフターズ』を開講
2020	コロナ禍において渋谷区教育委員会・渋谷区と連携し、区立小・中学校の児童・生徒の学習の保障を推進する『渋谷オンライン・スタディ』の動画を制作
2021	学びについて学ぼうポとして一般社団法人LeaLを設立
2023	「未来の教室」実証事業に『ティーンディレクター』が採択される

# 最終報告書目次

1. 事業者
2. 背景と目指す姿
3. 実施体制・実証フィールド
4. 実証内容
5. 実証結果
6. 今後の自走・普及プラン

Appendix

## 2. 背景と目指す姿

### 背景

#### 背景① 多様な好奇心・探究心を学校のみで満たすことは困難

総合的な学習（探究）の時間では、これまでの教科指導とは違ったカリキュラムマネジメントの力が必要とされている。

生徒の多様な好奇心や探究心に応え、主体性を引き出しながら、地域や学校の特色に応じて新たなカリキュラムを開発し、地域と連携してプロジェクトを進めることが教師に期待される一方、その負担が大き過ぎるという問題がある。

#### 背景② 探究学習を指導する人材の不足

探究学習では「教員の人材・時間不足」という課題を解決するために、学校は企業や大学などから外部講師を手配し、探究学習に協力してもらい取り組みを行っている。

しかし、専門性を持つ外部講師が必ずしも教育的指導を行うスキルを持っているとは限らないことも課題である。

#### 背景③ 探究学習を実施するための財源不足

学校現場が外部の力を借りて探究学習を行う場合は、企業のCSRやボランティアに支えられている部分も多い。

こうした善意により教育が支えられていることは、素晴らしいことである一方、事業として収益を上げる仕組みがないため、良い取り組みがあっても、それを全国規模に拡大、普及させることは難しい傾向にある。また、財団による助成金や自治体による補助金によって運営されているものに関しても、長期的視点で見た際に持続可能性に課題がある。

### 目指す姿

3つの課題「多様な好奇心・探究心を学校のみで満たすことは困難」、「探究学習を指導する人材の不足」、「探究学習を実施するための財源不足」を解決するために、本事業では、**各地域のテレビ局を軸にした新たな学びの場の創出を目指す。**

#### あるべき姿① 生きた社会を学べる学校外の場の提供

生徒の探究心に応えられる、生きた社会について深く学べる場とカリキュラムを確立する。

#### あるべき姿② 専門性と指導スキルを兼ね備えた人材の育成

映像制作者に、指導スキルを身につけられる研修やツール等を提供する。

#### あるべき姿③ 持続可能な事業の構築

地域の企業や団体から費用を調達できるように、テレビ局と協力して魅力的なコンテンツとメディアを提供する。



# 最終報告書目次

1. 事業者
2. 背景と目指す姿
3. 実施体制・実証フィールド
4. 実証内容
5. 実証結果
6. 今後の自走・普及プラン

Appendix



## 3. 実施体制・実証フィールド

### 実施体制

---

事業受託者：株式会社ディレクションズ

- 統括責任者：岩切 謙太郎 (代表取締役)
- 執行責任者：榑崎 匡 (執行役員)
- 渉外担当：古館 勝義、原田 史

再委託先：

- 東京メトロポリタンテレビジョン株式会社
- 福島テレビ株式会社
- 福島大学 教育推進機構 特任准教授  
千葉 偉才也
- 一般社団法人LeaL  
小池 拓也、鈴木 款

取材協力（東京）

- 株式会社アークレブ
- 一般社団法人 渋谷未来デザイン
- 日本学術会議 若手アカデミー
- 株式会社 陽と人

取材協力（福島）

- アポログループ株式会社
- 株式会社ペンギンエデュケーション
- 会津オリンパス株式会社

### 実証フィールド

---

① 品川女子学院

- 所在地：東京都品川区北品川3-3-12
- 参加生徒：17名

① 福島テレビ

- 所在地：福島県福島市御山町2-5
- 参加生徒：8名
- 参加校詳細：福島県立福島高等学校、福島県立橘高等学校  
福島県立伊達高等学校、福島県立福島南高等学校  
私立桜の聖母学院高等学校

# 最終報告書目次

1. 事業者
2. 背景と目指す姿
3. 実施体制・実証フィールド
4. 実証内容
5. 実証結果
6. 今後の自走・普及プラン

Appendix

## 4. 実証内容概要

	狙い	取組内容
① 生きた社会を学べるカリキュラム開発	<p><b>生徒が社会課題を自分ごとにする</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の多様な好奇心・探究心を受け止めて、発展させる。</li> <li>社会課題や地域課題について、生徒が実感をもって考えられるようになる。</li> <li>将来の生き方について、生徒が自ら考えるきっかけをつくる。</li> </ul>	<p><b>東京と福島でそれぞれ実証</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会課題や映像制作に興味関心がある生徒を募集し、課外活動としてのワークショップの実施。</li> <li>社会課題に取り組む地域企業や団体を取材対象として映像を制作し、生徒が課題を「自分ごと化」できるカリキュラムの開発。</li> </ul>
② 専門性と指導スキルを兼ね備えた学校外部の人材の育成	<p><b>外部講師が探究活動に伴走できる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員経験のない外部講師が、生徒の主体的な探究活動に伴走できるようになる。</li> <li>定まった正解のない状況で、生徒それぞれの考えを引き出し、深く学べるようにする。</li> </ul>	<p><b>ツールで標準化／チームで深化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>映像制作者が外部講師として利用できる指導マニュアル、スライドなどのツールの整備。</li> <li>外部講師を務める映像制作者たちのチームを形成し、生徒たちの深い学びを実現するために話し合える場の構築。</li> </ul>
③ 持続可能な仕組み構築	<p><b>探究活動を支える協力体制の構築</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の探究活動を継続的に支えられる、地域社会と教育現場の協力体制を構築する。</li> </ul>	<p><b>テレビ局と地域企業や団体の実証参加</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テレビ局：外部講師（アシスタント）の派遣。</li> <li>地域企業や団体：生徒の取材への協力。</li> <li>講師の稼働量、運営費、企業や団体にとっての情報発信としての価値、等の計測。</li> </ul>

## 4. 実証内容 詳細① 生きた社会を学べるカリキュラム開発

### 【①-A. カリキュラム開発】

生徒がワークショップを通して段階的に課題への理解を深め「自分ごと化」していけるように、前提となる知識を得られる講義や、地域企業・団体への取材、伝え方を議論する班活動などをバランスよく組み立てた。

		カリキュラム
	授業名・ねらい	内容
第1回	<b>「なぜ伝える？」 社会課題への理解を深める</b> ・社会課題や地域課題を「自分ごと化」して考える。	生徒は事前に指定された社会課題、企業について調べ、班の中で発表する。自分達の興味や疑問を明確化していくために、ブレインストーミングをする。次回の取材で何を聞きたいのかを具体化していく。
第2回	<b>「どう取り組んでる？」社会課題に取り組んでいる人を取材</b> ・課題への理解を取材で確認し、さらに深める。	企業・団体への質問事項を各自考えてきた上で、実際に取材を行う。取材を通して得た気づきを書き出し、その中から自分達が伝えたいメッセージを取捨選択していく。
第3回	<b>「どう伝える？」ロケの計画・準備</b> ・映像メディアの特性を生かした伝え方を考える。 ・ロケに向けて撮影やインタビューの方法を学ぶ。	生徒たちの意見を踏まえ、ファシリテーターが仮の構成を事前に準備する。構成を元に自分達のメッセージをターゲットにより効果的に届ける演出を考え、同時に撮影内容を決めていく。また、撮影機材の扱いも練習する。
第4回	<b>「チームで協力して撮影」ロケ</b> ・自分の役割を遂行し、班で協働して撮影を行う。	ファシリテーターが事前に決めたスケジュールに沿って、ロケを進めていく。それぞれが役割を分担し、班で協働して撮影を行う。
第5回	<b>「どう編集する？」編集方針検討</b> ・撮影をすることで得られた新たな発見や理解の深まりを、ナレーションや編集に反映させる。	ファシリテーターによるラフ編集の試写を行う。自分達の伝えたいメッセージが表現できるように、構成やナレーションをブラッシュアップする。
第6回	<b>「伝えるっておもしろい」ナレーション収録、上映会</b> ・自分が伝えたいことが的確に伝わったかどうか、観客の反応から実感し、さらに理解を深める。	ファシリテーターが修正した映像を見て自分達の思いが反映されているか確認する。ナレーション収録を行い、編集の仕上げをする。上映会にて、動画の視聴、感想、考えたことを発表する。

# 4. 実証内容 詳細① 生きた社会を学べるカリキュラム開発

## 【①-B. 実施体制】

東京と福島の2カ所で異なる条件のもとワークショップを実施し、今後全国に展開できるカリキュラムを検証した。

実施体制		
	東京	福島
協力校	品川女子学院（私立女子校）	福島県北の公立共学校・私立女子校など6校
実施場所	品川女子学院	福島テレビ
実施規模	ワークショップ2時間×6回 生徒17名（女） 4、5名ずつの4班	ワークショップ2時間×6回 生徒8名（男女） 4名ずつの2班
外部講師	・ディレクションズ ・東京メトロポリタンテレビジョン株式会社（アドバイザー）	・ディレクションズ ・福島テレビ
取り上げる社会課題	・海洋環境問題 ・ジェンダーギャップ解消 ・女性の健康 ・日本の研究力低下	・エネルギー問題 ・ワークライフバランス
取材協力企業・団体	・株式会社アークレブ ・一般社団法人 渋谷未来デザイン ・日本学術会議 若手アカデミー ・株式会社 陽と人	・アポログループ株式会社 ・株式会社ペンギンエデュケーション ・会津オリンパス株式会社

生徒の募集方法
社会課題について生徒が興味を持って学べるテーマを設定する。
東京：中学2年生～高校2年生を対象に、校内一斉募集。
福島：福島県北の公立私立の高校に企画趣旨を説明し、高校1、2年生を対象に校内一斉募集。

**ティーンディレクターとは？**

環境、ジェンダー、課題…いま日本の社会では解決するべき様々な課題があります。私たちが暮らす社会課題を積極的に考え、解決策を考へていくのは大切なことです。一方、こうした課題を学ぶに際しては、興味を持って取り組んでいくことが大切です。そこで、このプロジェクトでは、高校生が興味を持って取り組むことのできるような取り組みを考へています。

【ワークショップ スケジュール予定】（※各回1時間30分）

1日目	10月7日(土)	14:00-16:00	「何を学びたいか？」 社会課題への関心を高める
2日目	10月11日(土)	14:00-16:00	「どうやってやる？」 社会課題に取り組む方法を学ぶ
3日目	10月15日(土)	14:00-16:00	「どうやってやる？」 社会課題に取り組む方法を学ぶ
4日目	10月19日(土)	13:00-17:00	「どうやってやる？」 社会課題に取り組む方法を学ぶ
5日目	10月23日(土)	14:00-16:00	「どうやってやる？」 社会課題に取り組む方法を学ぶ
6日目	10月27日(土)	14:00-17:00	「どうやってやる？」 社会課題に取り組む方法を学ぶ

【場所】福島テレビ内ワークスペース（〒960-8508 福島県福島市山田2-5）

【対象】高校1年生、2年生

【申し込み方法】  
参加をご希望の方は、担当の先生にご連絡ください。その際、以下の情報をお送りください。  
①氏名 ②学年 ③ご連絡先 ④興味関心のある社会課題  
届いた申し込み情報で絞り込んでいきますので、関わっている企業・団体がある場合は、必ずその旨をお知らせください。

【お問い合わせ先】  
株式会社アークレブ（代表） 藤原 優子  
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 千代田ビルディング10F  
TEL: 03-6262-1111 FAX: 03-6262-1112  
E: info@arkclub.co.jp

プロジェクトの様子は福島テレビで紹介予定！  
あなたのつくった映像が放送されるかも…？

# 4. 実証内容 詳細① 生きた社会を学べるカリキュラム開発

【①-C. 検証方法】 生徒が社会課題に関して理解を深められているか、アンケートを実施して検証した。

## 生徒へのアンケート実施方法

ループリック評価を作成し、授業毎に生徒に自己評価をしてもらい理解の到達度を測った。また、最終回のアンケートでは、ワークショップ全体を通しての自己評価も自由記述で回答してもらった。アンケートの回答結果より、生徒の成長の過程を追った。

★ワークショップ毎の効果測定  
各回で内容に即したアンケートを実施

2023年度 未来の教室「ティーンディレクター」ループリック						
		レベル5	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
取材	社会課題への理解	複数の情報に基づき社会課題を分析し、自分なりの解決策を提案できる	複数の情報に基づき、社会課題を分析し、具体的に問題点を指摘できる	社会課題について複数の情報をもとに具体的に説明ができる	社会課題の概要はわかるが、具体的に調べたことがない	社会課題が何かはっきりとは分らない
	取材対象への理解	自分の意見を持った上で、取材を通してさらに深く魅力を聞き出すことができた	取材対象の社会課題への取り組みを分析し、自分の意見をもつことができた	取材対象の社会課題への取り組みを調べ、その特徴を理解できた	取材対象の情報を集めることができた	取材対象に対し何も知らない
	社会課題と取材対象の関連性	社会課題と取材対象の取り組みのつながりを分析し、自分なりの解決策を説明できる	社会課題と取材対象の取り組みのつながりを分析し、課題点を説明できる	社会課題と取材対象の取り組みのつながりを、具体的に説明することができる	社会課題と取材対象の取り組みのつながりについて、つながりを見つけていることができた	社会課題と取材対象の取り組みのつながりがわからない
構成	情報の組み立て	伝えたいことに基づいて、取捨選択した情報をわかりやすく組み立てられた	伝えたいことに基づいて、取捨選択した情報を組み立てられた	伝えたいことに基づいて、特に重要なことを取捨選択できた	取材した情報の中から、伝えたいことを見つけることができた	伝えたい情報が分らない
	ターゲット理解	ターゲットの特性を具体的に考え、興味関心を得るための工夫を構成に反映できた	ターゲットの特性を具体的に考え、興味関心を得るための工夫を考えた	ターゲットを明確に意識して、具体的に特性を考えた	ターゲットは意識したが、明確に特性を考えなかった	ターゲットを意識しなかった
	情報の正確性	情報が正しいか、複数の情報源を使って確認し、視聴者に誤解なく伝える工夫を具体的に構成に反映できた	情報が正しいか、複数の情報源を使って確認し、視聴者に誤解なく伝える工夫を考えた	情報が正しいか、複数の情報源を使って確認をした	情報が正しいか、1つの情報源だけで確認をした	情報が正しいか確認をしなかった
表現	撮影	自分の役割もこなし、他の班員のサポートもした	自分の役割を理解し、必要な行動ができた	自分の役割を理解し、概ね実行できた	自分の役割は理解できていたが、十分に実行できなかった	自分の役割を理解できていなかった
	編集	構成で計画していたこと以上に、自分達の考えを伝えられる映像ができた	構成で計画していた通りに、自分達の考えを映像に反映できた	構成で計画していたものが、おおむね映像に反映できた	構成で計画していたものが、十分には映像に反映できなかった	構成で計画していたものが、全く映像に反映できなかった



# 4. 実証内容 詳細②専門性と指導スキルを兼ね備えた学校外部の人材の育成

## 【②-A. 指導マニュアルと教材の整備】

指導経験のない映像制作者でも、生徒の主体的な探究活動に伴走できるように、指導マニュアルを作成し、事前に研修会を実施した。ワークショップ中に利用できるワークシートやスライドも作成し、使いやすさと教育効果を検証した。

第3回目 「どう伝える？」ロケの計画・準備		
生徒：方針、演出検討を考慮する ファシリテーター：前回までの内容を踏まえ、仮ロケスケジュールを作成、チーフに確認をとる 運営：カメラなどロケで使用する機材（班毎）の準備		
	学習の流れ	指導上の留意点・準備
導入 5分	<b>【全体への説明】</b> ・本時の流れの説明	＊チーフファシリテーター中心に活動を行う ・流れの揭示
展開1 4.5分	<b>【班毎の活動】</b> <b>①構成の確認</b> ・考えてきたことを共有しながら構成を固めていく  <b>②撮影内容の検討</b> ・構成に沿って撮影内容を考える ・ナレーションも考えながら、必要なカットを割り出していく  ＊詳細スケジュールはロケまでに各班のファシリテーターが作成	＊ファシリテーター中心に活動を行う   ファシリテートの例 「何を撮影したら伝わるか？」 「インタビューで何を聞いたら面白い答えが返ってきそうか？」
	展開2 1.5分	<b>【全体への説明】</b> <b>①撮影時の役割説明</b> ・撮影時の役割の説明（スライド） ディレクター、カメラ、音声、インタビュアー、制作進行など ・スタッフが守る ＊撮影したものをスクリーンに投影しながら 「ディレクターは演出を考える人です。どんな映像が撮りたいかを決めて、カメラや出演者に伝えます。」 「カメラは、ディレクターの意図を読み取って撮影します。カメラからディレクターに映像の取り方のアイデアを出すこともあります。」 「音声は、マイクを取り付けたり、ちゃんと音が録音できているかを確認したりします。」 「インタビュアーは、出演者として映像に映り込む場合もあります。ディレクターが兼務することもあります。」 「制作進行は、スケジュール通りに撮影が進んでいるかななどを管理します。撮影準備の間に、出演者のケアをしたり、撮影スタッフが通行する人の邪魔になっていないかなどの確認をしたりします。」など

指導マニュアル

構成のポイント

まずは伝えたいメッセージを確認！

■伝えたいメッセージを決めてから  
どんな情報をどんな順で伝えるかを考える

ティ・ンティレクター

構成のポイント

視聴者の興味を考える

■視聴者の中高生の興味を引くには  
どうすればよいか考えながら演出を詰める

ティ・ンティレクター

スライド

## 4. 実証内容 詳細②専門性と指導スキルを兼ね備えた学校外部の人材の育成

### 【②-B. 講師チームの形成】

各班にファシリテーターとアシスタントを配置。さらに同様のワークショップの経験があるスタッフをチーフファシリテーターに登用し、ファシリテーター全体の統括をした。ファシリテートをする上での注意点を事前研修で説明し、さらに各ワークショップ終了後に振り返りのミーティングを設け、スタッフ同士がフランクに意見を交換できる場を構築した。

#### 事前研修（2時間）



##### 全体会（1時間）

内容：事業目的の理解、活動内容の理解  
資料：指導マニュアル、スケジュール

特に子どもとの関わり方について、最低限守るべきことを具体的な事例を元に説明し議論したことで、共通認識を生むことができた。



##### 地域別分科会（1時間）

内容：担当テーマの確認  
資料：指導マニュアル、スケジュール

地域が抱える社会課題について議論したことで、ファシリテーターが事前準備をより広い視野で行うことができた。

#### 各回振り返り（1.5時間）



内容：活動、生徒への関わり方の振り返り、今後のファシリテートの方針検討  
資料：指導マニュアル、スケジュール

チーフファシリテーターを中心に各回終了後、1.5時間の振り返りを行った。ファシリテーターだけではなく、アシスタントからも意見を聞くことで、チーフファシリテーターが各班の状況の詳細を把握し、今後の班の方針を検討した。



## 4. 実証内容 詳細③持続可能な仕組み構築

### 【運営資金と外部講師の確保】

運営資金と外部講師の確保を持続可能にするために必要な条件を、テレビ局、地域企業、教育現場へのアンケートとヒアリングで明らかにした。

#### アンケートとヒアリングで明らかにすべき点

本実証事業が目指すサイクル



#### 企業・団体

- ・教育活動を通じて地域へ貢献することができるか
- ・参加する生徒だけでなく、広く地域の人々に自分達の取り組みを発信することができそうか
- ・生徒に自分達の取り組みを発信し魅力を伝えることで、都市部に流出しがちな優秀な人材を獲得するチャンスに繋がりそうか



#### 生徒・教育関係者

- ・地域の企業や団体への理解、興味関心は高まったか
- ・社会の課題を「自分ごと化」できたか
- ・情報収集や整理、表現、発信、協働する力は高められたか

#### テレビ局

- ・教育活動を通じて地域へ貢献することができたか
- ・既存の顧客である企業や団体と関係性を強めることができたか
- ・テレビ離れをしている若年層と関係性を強めることができたか

#### 外部講師 (テレビ局・ディレクションズ)

- ・外部講師として学習支援を適切に行えたか
- ・外部講師として指導するノウハウが構築できたか
- ・外部講師としての負担はどのくらいだったか



# 最終報告書目次

1. 事業者
2. 背景と目指す姿
3. 実施体制・実証フィールド
4. 実証内容
5. 実証結果
6. 今後の自走・普及プラン

Appendix

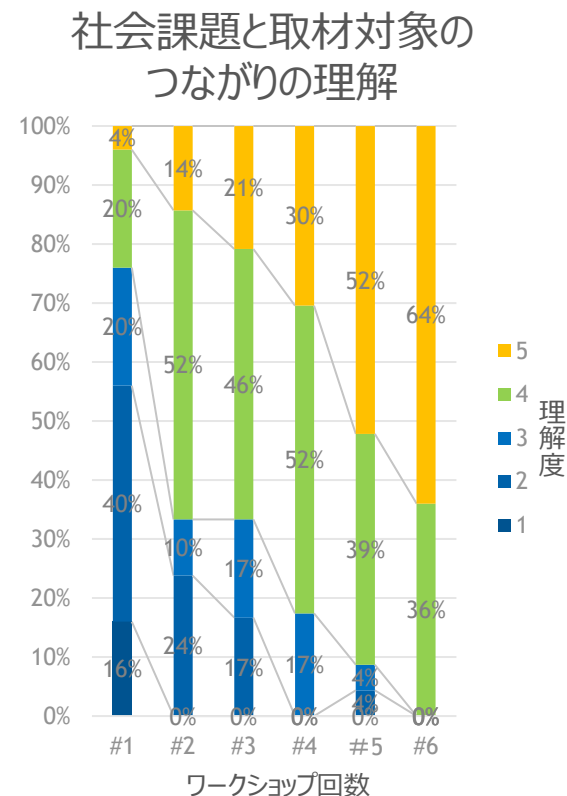
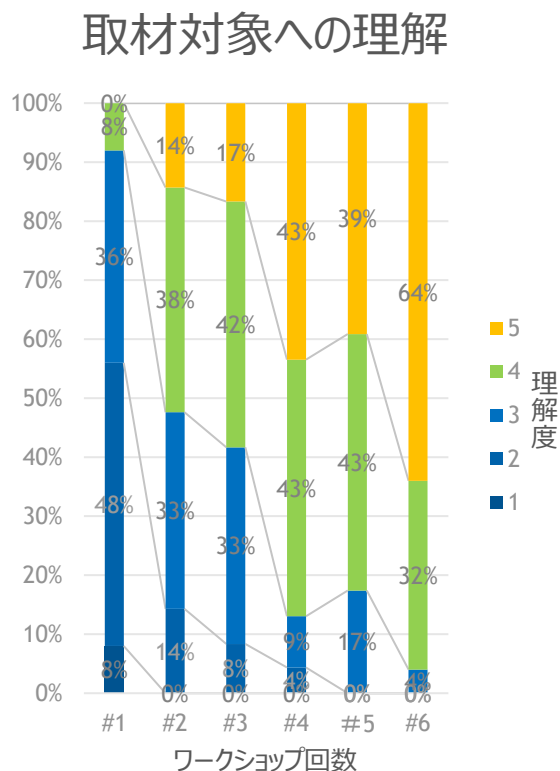
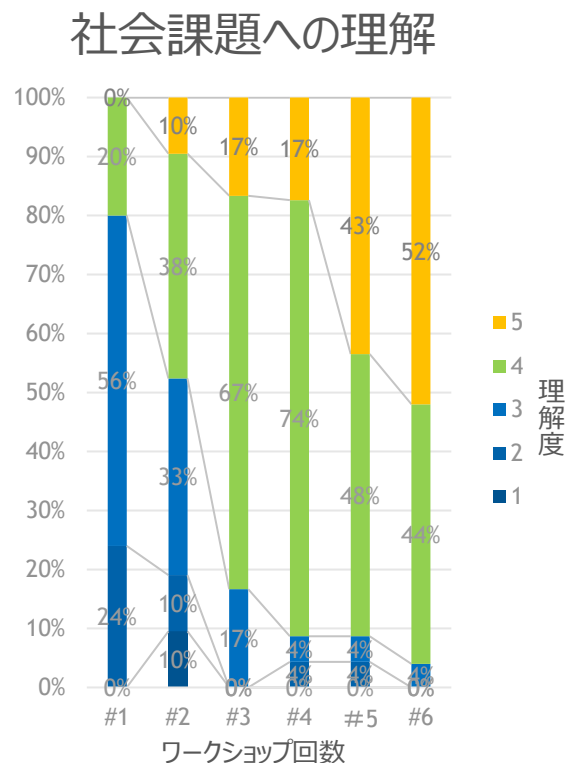
## 5. 実証結果概要

	結果
① 生きた社会を 学べるカリキュラム開発	<b>社会課題やキャリアに関する理解と発見</b> <ul style="list-style-type: none"><li>映像制作を通して、地域で働く大人たちへの取材と思考の整理を繰り返すことによる学習効果が実証された。<ul style="list-style-type: none"><li>生徒は社会課題への理解を深め、自分ごととして受け止められるようになった。</li><li>また、生徒は好奇心・探究心をもとに、自発的に学べるようになった。</li></ul></li></ul>
② 専門性と指導スキルを 兼ね備えた学校外部の 人材の育成	<b>映像制作者が生徒の探究と表現をサポート</b> <ul style="list-style-type: none"><li>映像制作者が番組制作を通して培った取材や構成の技術をもって、生徒たちの課題への理解を深いところまで導くノウハウが蓄積された。</li><li>映像表現において、適切な形で生徒の主体的な表現手法をサポートする仕組みが整備された。</li></ul>
③ 持続可能な仕組み構築	<b>資金提供と外部講師の確保</b> <ul style="list-style-type: none"><li>テレビ局を介して取材企業に営業することによるサード・プレイスモデルは成立可能と明らかになった。<ul style="list-style-type: none"><li>特に地方テレビ局だと、人材流出等の地域課題貢献を主な目的とし、継続的な連携が可能</li><li>テレビ局としては取材企業の確保がネックとなるが、普段のスポンサーが地元企業であり取材先の確保がしやすい点も地方テレビ局の方が本事業と整合性あり</li></ul></li><li>取材企業には、地元貢献・若年層との接点に加え、露出によるPR効果・メンターとなる大学生へのリクルーティングをメリットとして訴求することで資金を収集<ul style="list-style-type: none"><li>取材企業としては費用対効果を重視。放映に加え、接点を持てる生徒の数を増やすためには、企業が学校現場に出前授業できる機会を設けることも一案</li></ul></li><li>一方、運営をするための人的コストが高く、資金調達のハードルが大きく、多くの生徒への普及は難易度が高いため、裾野を広げるために学校現場での導入プランを作成</li></ul>

# 5. 実証結果 詳細①生きた社会を学べるカリキュラム開発

## 【①-A. 映像制作を通して社会課題への理解が深まった】

### ループブックにもとづく自己評価の変遷グラフ



ワークショップを経る毎に理解度が高まったことがわかった。興味深い点は社会課題への理解と取材対象への理解の深まり方が異なることである。社会課題への理解は2回目の事前取材、3回目の構成検討の段階共に順調に増加している。一方、取材対象への理解は2回目の事前取材で理解が高まったものの、構成を考える段階では理解度の増加があまりない。おそらく構成を考える中で、取材をしてわかったつもりになっていたが十分に理解ができていなかったことに気づいたためではないか。ただし、4回目で自分達が新たに気づいた疑問点を撮影を通して聞くことができたため、ここで理解度が大幅に増加したと思われる。

## 5. 実証結果 詳細①生きた社会を学べるカリキュラム開発

### 【①-B. 地域で働く大人たちへの取材を通して、社会課題を自分ごととして捉えられるようになった】

#### 各回の生徒の感想より抜粋

第1回

第2回（取材）

第4回（ロケ）

第6回（上映会）

<福島 高校1年生Aさん>

顔も名前も知らない人達と社会問題について話せたのが新鮮で楽しかった。

緊張してしまい聞きたいことが質問出来なかったのが、少し悔しい気持ちです。

初めての経験で緊張したけれど、街ゆく人の意見を生で聞いて良かったです。それを映像にどう取り入れるか考えようと思いました。

社会課題と真剣に向き合っている大人がいるという事を知れたことが1番学べたことです。

<東京 高校1年生Cさん>

今回の特別講座がなければ考えもしなかった内容の社会課題なので、とても面白かったですし、理解も深まったと思います。

「研究力の低下」に対する理解が高まりました。研究者側と消費者側の両方にある扉を開いて繋がられるような動画にしたいなと思いました！

インタビューの際に欲しいコメントを言うことがなかなか難しく、苦戦しましたがとても良い経験になりました！

社会問題そのものは今だから問題なのであって、過ぎてしまえば過去のものなのかもしれないと思いました。だからこそ、「今」を生きる私たちがその問題について深く知ることが大切なんだと学びました！

各回の生徒の感想より、事前取材や撮影を通じて徐々に意識が変化したことがわかった。この変化には、映像制作のプロセスそのものが深く関わっているのではないと思われる。映像制作では、取材対象者から情報を聞き出すために能動的に問いを立てたり、取材で得た情報を他人に伝えるために整理するという一連のプロセスがある。その中で長時間テーマと対峙し、自分なりの解釈をする必要があるため、自ずとテーマが自分ごと化していったのではないと思われる。

## 5. 実証結果 詳細①生きた社会を学べるカリキュラム開発

### 【①-C. 好奇心・探究心をもとに、自発的に学べるようになった】

#### 各回のファシリテーターの感想より抜粋

第1回

・なかなか難しいテーマでしたが、**生徒たち自身が全然わかっていないということを客観的にとらえることができていた。**

・WS前の事前リサーチでは情報が乏しく、WS中に理解を深めていった。限られた時間だったが、**全員が集中力を発揮して理解を深めていた印象**であった。

第2回（取材）

・取材対象との会話で刺激を受け、**モチベーションが1段上がったように感じた。**社会課題への理解は深まっていますが、実感が伴っていない様子も伺えた。また、個々に興味の方角性に差が出てきているように見えた。

第4回（ロケ）

・インタビューでのやり取りに関して、**質問メモ以外にもどんどん自分の考えなどをつたえながら相手の意見を引き出すことができていたのでインタビュー力の高さ/問題意識への高さが見受けられた。**

・いつもまとめ役になってくれる生徒が遅れての参加で人員が少ない中、**普段控えめな生徒が積極的に意見を出していたのが印象的だった。**

第6回（上映会）

・「体験」できるワークショップはちまたにあふれていますが**「思考」を深めるワークショップはまだまだ少ない**と思う。かなり高度なことをしているがいろんな展開がありえると思った。

各回のファシリテーターの感想とプロジェクト終了後のヒアリング結果から、生徒の成長を感じたという感想が多くあった。議論や取材を深めていくことで、もっと知りたいポイントや重要な部分を見つけられるようになり、能動的に質の高い問いを立てることができるようになっていった。

# 5. 実証結果 詳細②専門性と指導スキルを兼ね備えた学校外部の人材の育成

## 【②-A. 指導マニュアルと教材の整備】

### 指導マニュアルと教材の例

<p><b>第1 項目 「何をなぜ伝える？」 社会課題への理解を深める</b></p> <p>背景 当該の興味関心のある社会課題を考慮した上で制作されている。</p> <p>●<b>到達目標</b> 事前に設定された社会課題、企業ファシリテーター、2 対1程度で発表する準備をしておく (どんなところに興味を持ったのか、どんな課題があるか、それに対してどう考えんのか)</p> <p>●<b>ファシリテーターの準備</b> ① 担当の社会課題、企業の課題について調べる ② 授業の進め、構成案を作成し、下に記述するワークシート、発表用の説明紙、ペン、シールなど用意し、ネットにアクセス、授業紙と付箋は用意しておく。Slackのチャットも各種準備しておく。</p> <p>学習の流れ ファシリテーターの指導・支援</p> <p>導入 【全体への説明】 概要説明 1 分30 【グループ紹介】 自己紹介</p> <p>【各グループのスタッフ紹介】 ファシリテーター、ファシリテーターの役割説明 ●各自の自己紹介は全てグループ単位 ●所属の乱れを修正する</p> <p>【ファシリテーターの役割説明 (スライド)】 ① 目的、各々のテーマ</p> <p>【各グループの役割説明】 ワークショップの説明 ●発表後、事前ファシリテーターの共有 ●テーマ教材見への理解を深める ●今日のまとめ</p> <p>【グループワークへの前振り】 「ここからは、グループワークに移ります。まずは自分の自己紹介をしてください。そのあと、事前に調べてきたことについて1人2分で発表してもらいます。調べてみて、どんなことが面白かったとか、こんなよみかあったとか、あんなで面白くていいですね。」</p> <p>→グループワークへ</p> <p>展開1 【グループワーク】 2分30 【班内での自己紹介】</p> <p>【班内での名前を決める】 「次に班の名前を考えよう！皆で話し決めてください。」 ●決めたら、班順に書きに行く ●ここで5分くらいを目途に進める</p>	<p>【社会課題について説明】 「貴方の担当のテーマは？」 「皆さんの調べた内容があったら、疑問に思ったことなど、1人2分発表してもらいます。」</p> <p>●<b>期日の説明</b> 「他の人の発表を聞いて、自分が決めた点や、新しく気づいた点などがあったら、意見伝えてください。みんなの意見をどうにか活かして理解を深めていきましょう。」</p> <p>→発表へ ●期日は書き出しは決める ●発表は対して他のメンバーの感想も聞き出す</p> <p>展開2 【全体への説明】 5分 【班内での役割説明】 「ワークショップの中で色んな意見が出てきます。その中から班の自分たちの考えをまとめていきましょう。」</p> <p>「事前に調べたことと面白かったこと、気になったこと、疑問に思ったことなどを話し合いながら、班員に書き出していきましょう。まずは、自分たちの班の中にあるものを、どんな点で書こうとしましょう。書いてあることについて書いていきます。」</p> <p>「必要であれば、インターネットで追加情報をし、て、疑問に思ったことについて調べてもらいます。ネットや調べても分からないことは、次の時間インターネットで調べることができるので、そういう質問したいことも班員に聞いてください。」</p> <p>→グループワークへ</p> <p>展開3 【班内での役割説明】 7分30 【班内での自己紹介】</p> <p>●企業が取り組みを起点に、それが行わなければならない事項を考える ●それをチームで共有する社会課題が、なぜ課題と思われるのか、根拠から考える</p>	<p>●<b>情報を整理</b> ① 付箋に書き出したことを整理していく ●整理の方法はファシリテーターに合わせる</p> <p>② <b>まとめの発表のアナウンス</b> 「あと5分で終わります。各グループ今日どんなことを話し合ったかを発表してもらいます。代表で発表する人を選んでください。」</p> <p>③ <b>まとめの発表</b> 「みんなの発表を聞いて、自分が決めた点や、新しく気づいた点などがあったら、意見伝えてください。みんなの意見をどうにか活かして理解を深めていきましょう。」</p> <p>④ <b>まとめの発表</b> 「みんなの発表を聞いて、自分が決めた点や、新しく気づいた点などがあったら、意見伝えてください。みんなの意見をどうにか活かして理解を深めていきましょう。」</p> <p>⑤ <b>まとめの発表</b> 「みんなの発表を聞いて、自分が決めた点や、新しく気づいた点などがあったら、意見伝えてください。みんなの意見をどうにか活かして理解を深めていきましょう。」</p> <p>⑥ <b>まとめの発表</b> 「みんなの発表を聞いて、自分が決めた点や、新しく気づいた点などがあったら、意見伝えてください。みんなの意見をどうにか活かして理解を深めていきましょう。」</p> <p>⑦ <b>まとめの発表</b> 「みんなの発表を聞いて、自分が決めた点や、新しく気づいた点などがあったら、意見伝えてください。みんなの意見をどうにか活かして理解を深めていきましょう。」</p> <p>⑧ <b>まとめの発表</b> 「みんなの発表を聞いて、自分が決めた点や、新しく気づいた点などがあったら、意見伝えてください。みんなの意見をどうにか活かして理解を深めていきましょう。」</p> <p>⑨ <b>まとめの発表</b> 「みんなの発表を聞いて、自分が決めた点や、新しく気づいた点などがあったら、意見伝えてください。みんなの意見をどうにか活かして理解を深めていきましょう。」</p> <p>⑩ <b>まとめの発表</b> 「みんなの発表を聞いて、自分が決めた点や、新しく気づいた点などがあったら、意見伝えてください。みんなの意見をどうにか活かして理解を深めていきましょう。」</p>
---	--	---

### <外部講師の指導の質を担保するためのマニュアル取りまとめ>

指導未経験者であっても、ワークショップの流れを把握することに役立てることができた。しかし、ワークショップ内でこなすタスクが複雑で、生徒の反応も班によって異なるため、進捗が揃わないという問題も起こった。各作業時間で最低限到達すべき目標を明確にし、なるべく進捗にばらつきが出ないように工夫する必要も感じられた。(改善プランの詳細についてはP.30に記載)

### <指導マニュアルの工夫点>

指導マニュアルを作成する上で工夫した点は以下である。

- 各ワークショップでのファシリテーター、運営、アシスタントの事前準備を記載することで、一つのマニュアルでどんな立場の人でも動けるようにした。
- 活動の流れが想定できるように、流れが変わる場面ではファシリテーターが生徒へかける最初の会話を記載した。
- 活動中に生徒の議論が停滞した場合も想定し、ファシリテーターの例を記載することで、議論の活発化をはかった。
- 議論を整理する際には共通して付箋を使用し整理することをマニュアル化した。この手法は、テレビ番組で編集をブラッシュアップする際にも用いられる手法だが、ワークショップのファシリテーターにも転用できた。

### <外部講師の反応>

- 目を通して流れや時間配分を確認していたのでWS内でも使用した
- 次回の活動イメージを作るのに役立った
- 記載されているファシリテーターの例、問いについては、ワークショップ内のタスクが多く一杯一杯でみていない



## 5. 実証結果 詳細②専門性と指導スキルを兼ね備えた学校外部の人材の育成

### 【②-B.講師チームの形成】

講師人材を育成する上で、今回実施した事前研修や振り返りが効果的だったかを検証するために、全てのワークショップが終了した後、ファシリテーター、アシスタントにヒアリングを行った。

#### 事前研修に対する感想

- ・生徒と接する上で**気をつけなくてはいけないこと**が事前にわかってよかった。
- ・プロジェクト**全体の流れがわかってよかった**。
- ・ワークショップの内容を知れたことで、**講師として心構え**ができたので意味があった。

#### 振り返りに対する感想

##### <東京>

- ・**各班の進捗状況を共有**することができたのはよかった。
- ・**長かったように思える**。個別具体的話は別途分科会を行えばいいと思う。
- ・**生徒の成長や学び**に関する話がもっと出るとよかった。

##### <福島>

- ・講義の内容だけでなく、**子ども達との距離感の確認**などするのにもよかった。
- ・振り返り会は**頭の中を整理**するのに必要だった。
- ・全体で振り返りをする前に**班のアシスタントと相談**や**すり合わせをする時間**が欲しかった。

事前研修に関しては概ね好評だった。気をつけるべきことを知る上でも、心の準備をする上でも必要なプロセスだった。

振り返りに関しては、一定の意義を感じつつも特に東京の班では時間がかかりすぎるという課題も見つかった。今後は会議の論点を絞り、全体で共有すべき情報と個別に話し合うべき議題を分け、必要に応じて別途分科会を開くなどの工夫が必要である。また、全体での振り返りをする前に、班の中のファシリテーターとアシスタントが個別に意見交換をする時間も設けると、よりスムーズに全体での振り返りができると考えられる。



## 5. 実証結果 詳細③持続可能な仕組み構築

### 【運営資金の確保】

持続可能な仕組みにしていくためには、企業から資金を提供してもらいプロジェクトを運営する必要がある。今回のワークショップに対しどのように価値を感じたのか、また参加への負担はなかったか、企業・団体へアンケートを実施した。

＜ワークショップへの満足度＞

		とても感じる	少し感じる	わからない	あまり感じない	全く感じない
教育へ貢献できたか	福島	1	2			
	東京	2	1	1		
地域の活性化へ貢献できたか	福島	1	1	1		
	東京			4		
リクルート効果は感じたか	福島	1	1	1		
	東京		2	1		1
広報宣伝は感じたか	福島	1	2			
	東京	1	2		1	
ワークショップへの負担は感じたか	福島			1	1	1
	東京			1	3	
		とても満足している	良い	普通	あまり良くない	未回答
ワークショップへの満足度はどうか	福島	1	1			1
	東京	4				

＜企業・団体の取材協力の内容＞

内容	時間
事前打合せ	1時間
生徒による取材 ※ワークショップ第2回	1時間
講師との打合せ,ロケ対応の準備など	1時間
ロケ（動画撮影） ※ワークショップ第4回	4時間
上映会 ※ワークショップ第6回	2時間
<b>総計</b>	<b>9時間</b>

・満足度は高かったが、広報宣伝については自社の宣伝というよりは業界のPRになったという声もあった。

・福島では地域の活性化へ貢献できたと感じる企業もあったが、東京については企業自体が地域との関わりが薄く、活性化につながるかはわからないと全員が答えた。背景として人材が都市部へ流出してしまうことに対し、地域の企業の魅力を伝えられたことで、貢献できたと答えられたのではないかと。

・また、制作された映像がテレビで放映され、プロジェクト期間中に協賛企業としてCMで企業名が露出するという条件であれば100万円以上提供できると回答した企業が3社あった。

## 5. 実証結果 詳細③持続可能な仕組み構築

### 【外部講師の確保・テレビ局としてのメリット】

当初テレビ局には、数名の映像制作者をファシリテーターとして派遣してもらう予定だった。しかし、ファシリテーターは時間的拘束が長く、通常業務の合間で行うことが難しいため、東京ではテレビ局からの講師派遣は行わず、上映会でアドバイスをもらう程度にとどめ、福島ではワークショップ当日にアシスタントとして人員を派遣してもらう形をとった。

ファシリテーターの業務量の概算

内容	時間		回数		合計	詳細（1回ごと）
事前研修	2	×	1	=	2時間	
ワークショップ準備	3	×	6	=	18時間	課題予習1,外部交渉1,指導計画1
ワークショップ当日	8	×	5	=	40時間	移動・準備4,ワークショップ2,振り返り2
ロケ（動画撮影）	8	×	1	=	8時間	移動・準備4,撮影4
映像編集	30	×	1	=	30時間	ラフ編集12,仕上げ12,修正6
振り返り・効果検証	2	×	1	=	2時間	
総計					100時間	

### 人員の派遣について

- ・アシスタントのみであれば業務量の負担はあまりなかった。今回は回により別のスタッフが参加したが、初回から最終回まで同じ人員を配置した方がコミュニケーションの面では良いと感じた。
- ・管理職など、直接番組制作に関わっていないスタッフの方が参加しやすい。
- ・ワークショップの開催時間について、平日だと番組の関係上、夜に対応することになってしまうかもしれない。

### テレビ局としてのメリット

- ・普段は高校生と接点を持てる機会が少ないため、有意義だった。
- ・仕事を理解してもらう機会ができたことがよかった。
- ・いろいろな人にテレビ局の施設を見に来てほしいので、場所を提供できたことはとてもよかった。付随してスタジオ見学などにも価値が出てくる。来年度以降もぜひ使ってほしい。
- ・普段付き合いのある営業先企業に対し、新しい提案として提示できる。

テレビ局としてはワークショップへ参加する意義は非常に感じてもらった。しかし、ワークショップでの十分な人員の確保は難しいので、地元スポンサー企業への営業や、ワークショップを行う場所の提供などで協力していきたいという意向が伺えた。

人員については引き続き確保する方法の検討が必要である。これに関しては地元の大学生などが参加できる仕組み作りを検討している。

今回の結果を踏まえると、地域とより密接に関わりのあるテレビ局の方が、地域貢献や地元企業との関係構築などのメリットも感じやすく、本事業への参加意義をより強く感じてもらえるのではないかと考えられる。

# 最終報告書目次

1. 事業者
2. 背景と目指す姿
3. 実施体制・実証フィールド
4. 実証内容
5. 実証結果
6. 今後の自走・普及プラン

Appendix

## 6. 今後の自走・普及プラン

### 【2023年度の活動をブラッシュアップ】

企業の協賛金で運営するためには、価値をよりわかりやすく提示し、普及していくことが必要である。そのために以下の2つの点を改善していく。

#### 露出回数を増加し、PR効果を高める

高校生たちがディレクターに挑戦 社会課題取材し映像作品に 様々な考えに触れ視野を広げる【福島発】

2023年12月25日 19:00



高校生が地域の企業取材し動画を制作する過程を追った特別番組の放送を検討している。この番組の中で企業が直接思いを伝える機会なども設ける予定である。

また、映像制作期間の3ヶ月については、ティーンディレクターに取材先企業が協賛していることを伝えるCMを流すことで、露出回数を増やす。

制作された映像については、企業が自由に利用できるようにし、広報などに活用してもらう。

#### 地元大学生との接点を増やし、リクルート効果を高める



地元大学の学生をファシリテーターとして採用することで、映像制作を通してインターンよりも関係の深い一緒にものづくりをした仲間になることができる。

またプロジェクトの報告会を大学で実施し、ワークショップに参加しなかった学生たちにも企業・団体について知ってもらう機会を作る。

## 6. 今後の自走・普及プラン

### 【外部講師の指導の質を担保するための施策】

今年度の実証ではマニュアルを作成したが、限られた時間の中で、生徒に合わせ臨機応変に対応しなくてはならないところも多くあり、ファシリテーターへの負担はまだ大きかった。ワークショップの質を担保しつつファシリテーターの負担を減らすためには、マニュアルの更なるフォーマット化が必要である。

#### ファシリテーターの感想から見た課題

<感想>

・**生徒と向き合う時間がもっとあれば、余裕を持って制作を進めることができ**、また生徒の学習機会としても上質なものができると思った。

・できる限り自分たちでクリエイトできるように仕向けたので時間がかかった。**もう少しワークショップの時間を増やすと消化不良なくできると思う。**

<見えた課題①>

**時間をかければ良いものができるというのは理解できるが、実際にかけられる時間は限られている。そのため生徒と議論すべきポイントをより明確にファシリテーターに示す必要がある。**

<感想>

・授業数や生徒の時間が有限で、直接編集作業に関わるのが難しいので、**班員の意見や狙いをいかに引出して映像に反映させるかや、班員とのコミュニケーションをいかにとるか**がこのプロジェクトの肝になる。

・**ファシリテーターが作業する時間が長いので**、台本、撮影、編集をもうちょっと子どもがやった方がいいと思う。

<見えた課題②>

**映像で表現する内容に自由度を持たせようとしすぎたあまり、映像制作のプロセスがやや複雑になった。そのため、生徒だけでは情報を整理することが難しく、ファシリテーターによる支援が多く必要となってしまった。**

#### マニュアル・ツールの改善

##### ワークショップ各回のゴールを明確化

各時間に到達するべき最低限の作業目標を明記し、議論のペース配分ができるようなわかりやすい進行マニュアルを整備する。

##### ワークシートの作成

各時間での目標へ到達するまでのステップを細かく設定し、ワークシートを埋める形式にすることで、論点がぶれないようにする。

これらを整備することで、今後大学生がファシリテーターになった場合でも、事前の研修等でファシリテートの進め方を共有しやすくする。

#### ワークショップの導入をシンプルにする

第一回のワークショップでは、導入としてそれぞれの生徒が社会課題に対してどのような興味関心を持っているかを話し合うところから開始した。これは意義深いことではあったが、企業が行っている活動と生徒が議論した内容が乖離することもあり、生徒たちに混乱を与えた部分もあった。そこで次年度からは、まずは企業がどのような活動を行っているかを起点にし、議論を発展させていく方がスムーズに活動を進行できるのではないかと。

## 6. 今後の自走・普及プラン

### 【認知度向上のための新プラン】

2023年度の活動によって「映像制作を通じた探究学習」は生徒にとって豊かな学びとなる可能性があることが分かった。しかし2023年度の形式では人的コストが高く、運用費調達のハードルも高い。また、多くの生徒に体験してもらうことが難しいことも課題である。そこで、2023年度の形式を「課外編」と位置付けて、それを補完し学校現場でも実施できる「入門編」と「実践編」を開発し、認知度を上げて課外編の価値をより高めていきたい。

#### 授業内で行えるプラン

### 入門編

映像制作を通じた  
情報の伝え方を学ぶ

2時間の授業  
+ 時間外活動 1時間ほど

ショート動画で伝える

### 実践編

映像制作に興味がある  
生徒の探究学習に伴走

2時間ほど×6回程度

映像制作のプロが  
定期的にアドバイス

#### 課外活動で行うプラン

### 課外編

さらに探究学習を深めたい  
生徒用のプラン

2時間ほど×6回の課外活動

プロが伴走して  
本格的な映像を制作

学校現場で普及するための新しいプラン  
運用資金 = 学校負担もしくは自治体負担、財団等

今年度のブラッシュアップ  
運用資金 = 企業からの  
スポンサー費

# 最終報告書目次

1. 事業者
2. 背景と目指す姿
3. 実施体制・実証フィールド
4. 実証内容
5. 実証結果
6. 今後の自走・普及プラン

Appendix



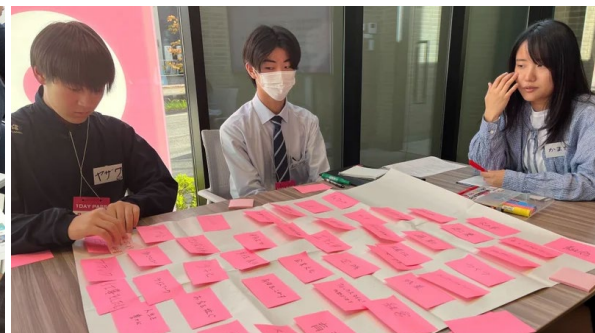
## 2023年度の各回ワークショップの様子

2023年度に行ったワークショップの様子を紹介。より詳細な内容は[ティーンディレクターのnote](#)にも記載している。

### 第一回「何をなぜ伝える？」 社会課題への理解を深める



<東京の様子>



<福島の様子>

#### <実施内容>

各班に分かれテーマとなる社会課題や取材先を発表。生徒たちは次回取材するためにリサーチを進め、興味があることや疑問を整理した。

東京では、学校が同じなので落ち着いた雰囲気だったが、福島では様々な学校から参加したため少々緊張した感じが感じられた。

#### <生徒コメント>

東京：「身近に感じていなかった問題も、深掘りすることで理解が深められて楽しかった」

福島：「社会課題に対する解決しなければいけない問題や、その具体的な対策などの質問を考えることができた」

### 第二回「どう取り組んでいる？」 社会課題に取り組んでいる人取材



<東京の様子>



<福島の様子>

#### <実施内容>

第一回のワークショップで生まれた知りたいことを東京ではオンラインで、福島では直接取材を行った。見聞きした内容から生徒たちが「何を伝えたいか」を考え、映像を作っていくために構成を考えた。生徒たちは東京、福島ともに疑問を直接取材先に問いかけることにより、社会課題と取材先の理解を深めることができていた。逆に取材先には「活動を見直す機会になった。」とのコメントをいただいた。

#### <生徒コメント>

東京：「今まで実感がわかかなかった課題もあつたけれど、インタビューをすることで親近感を感じました」

福島：「普段ニュースなどでは知ることのできない仕組みや企業の取り組み、またそれをなぜ行なっているかなど勉強できる部分が多かった。」



## 第三回「どう伝える？」 ロケの計画・準備



<東京の様子>



<福島の様子>

### <実施内容>

第二回で取材を経て考えた構成のブラッシュアップを行い、情報の取捨選択を行った。ある程度の情報を選ぶことができたなら物事をより効果的に見せるための演出のアイデアを出し合った。また、第四回で撮影に行くためカメラやマイクなど実際の機材を体験した。生徒たちは機材を体験したことでワークショップに対し、より主体的に動けるようになったと感じた。

### <生徒コメント>

東京：「本格的に動画の構成を考える活動が始まり、視聴者の方に興味を持ってもらうための工夫を構成に加えていくのがとても楽しかったです」

福島：「撮りたい映像についてさまざまな意見があったので、それらをどのように繋げるか、まとめるかを考えていきたい。実際に機材を触ったりして興味深かった」

## 第四回「チームで協力して撮影」 ロケ



<東京の様子>



<福島の様子>

### <実施内容>

第三回でまとめた構成や演出に合わせて撮影を行った。また、福島では街頭インタビュー形式で一般の人へ取材を行い、様々な意見を聞くことで生徒の視野を広げることができた。撮影を行う上で、生徒たちが自身で考えた演出を表現することができるようファシリテーターたちと共に計画的に撮影を行うことができた。

### <生徒コメント>

東京：「撮影するのはすごく大変だったけど、さまざまな立場の人の話を聞くことができ、自分の視野が広がったと思いました」

福島：「初めての経験で緊張したけれど、街ゆく人の意見を生で聞いて良かったです。それを映像にどう取り入れるか考えようと思いました」

## 第五回「どう編集する？」 編集方針の検討



<東京の様子>



<福島の様子>

### <実施内容>

仮編集された撮影した映像を見て、伝えたいメッセージが伝わる映像になっているかを確認し、映像と構成のブラッシュアップを行い、どう編集するかを考えなおした。また、編集に合わせて映像に入れ込むナレーションを考えた。この頃には生徒とファシリテーターに信頼関係が生まれており、活発に議論する様子や、楽しそうにナレーションのアイデアを出している様子が伺えた。

### <生徒コメント>

東京：「自分が想像していた以上にクオリティが高くてびっくりしました。大人の意見を聴きながら話し合いをすると視野が広がって新しい発見ができました！」  
福島：「意見交換をすることで自分の班の課題がより明確になった また自分でもっと仕入れるべき知識や社会の問題点などしっかり自分ごととし、意見を深めるべきだと感じた」

## 第六回「伝えるって面白い」 ナレーション収録、上映会



<東京の様子>



<福島の様子>

### <実施内容>

編集した映像に合わせてナレーションを吹き込み、映像を仕上げた。仕上げた映像は取材先の企業や生徒の家族、また公開授業も行ったため教育に興味を持つ様々な人に向けて上映会を行った。東京では取材先企業の人たちが、普段取り組んでいる社会課題に対して良い映像に対して生徒がよく理解を示し、社会に対する姿勢を発表した際に感動している様子も見られた。また、東京では東京メトロポリタンテレビジョン、福島では福島テレビの方々に総評をいただいた。

### <生徒コメント>

東京：「全班の映像のクオリティが高くてそれぞれの社会問題に興味もてた」  
福島：「答えが1つに決まっていない問題について考えるのは大変で、避けがちだが、社会の問題は答えが決まっていないものばかりで、まずは考える、自分の意見を持つということが大事だと感じた」